

受験者数は5万人を超えるなど、 人気急上昇中の社労士！ その背景にあるものは、何か？ 現役の社労士が大分析！



PROFILE

社会保険労務士 酒井和美

1971年生まれ。法政大学社会学部卒業。食品メーカーに2年間勤務し、結婚を機に退職した後、社会保険労務士となる。執筆活動や業務のかたわら、年金相談のホームページを開設し、日経新聞をはじめ、多くの雑誌で紹介されている。現在250件を超える相談事例を公開中。URLは、<http://www.nona.dti.ne.jp/~nenkin/> e-mailは nenkin@nona.dti.ne.jp

社会保険労務士（社労士）の人気が高まっています。受験者数は年々増加傾向にあり、平成15年の受験者数は5万人を超え、特に会社員層、無職者層からの受験者が増えています。この背景には、社労士に対する需要の高まりがあります。

社労士とは、社会保険や労働保険のスペシャリストのこと。総務部や人事部、労務部などに所属し、腕を振るうケースもありますし、またコンサルタントとして外部からそれらの部署に指導やアドバイスをする人もいます。企業で働く人々の採用から退職までの労働及び社会保険に関する諸問題はもちろん、老後の年金を含む生活設計や介護の相談にも応じます。年金など個人の方の相談も受けます。

少子高齢化や女性の社会進出といった社会環境の変化は、新たな法律を生み、企業は定年を60歳以上に設定する義務を負ったり、女性が能力を発揮できる職場作りを推進しなければならなくなりました。さらに、人々の職務内容や勤務形態に対する要望が多様化してきたため、従来のような一律の人事・労務管理では対応しきれなくなっています。多くの企業では新しい時代に合った管理をするために、就業規則の見直し、年俸制、職能給等の導入を始めとした賃金体系の変更、能率を上げるための労働時間制や労働形態の導入が求められています。

また近年では公的年金や健康保険法の仕組みが複雑化したことや介護保険制度が創

設されたことで、個人が行うちょっとした手続きにも専門的な知識が必要になってきました。今後、それらの専門家である社労士の活躍の場は、企業内外でますます広がっていくものと思われます。

社労士の資格を得るためには、まず国家試験に合格し、かつ一定の実務経験を満たした上で全国社会保険労務士連合会の名簿に登録する必要があります。気になる合格率は、およそ9%。どのような勉強方法で挑めば9%の仲間入りを果たせるのでしょうか。そこで、働きながらも、合格の切符を手にする“術”を、次回紹介していくことにします。